

## ハーリーの始まり

### 山内 実 (1901・M34) 字宇座 (02:51)

うぬフチヂンでいぬ人お、王ぬな一炊事係なたぐ  
と。王ぬて、「いやーが大変美味さんでい思いしえ  
一何やが、フチヂン」んちゃぐと、「私が大変美味さ  
んでい思いしえ一塩 やいびん」でい。「馬鹿！王ん  
かい向かていん 塩、うんぐと一辛物、な一美味さ  
んでい言るば一い」んち。うりから、「波照間んかい、  
いや一島流し。な一私にんかいな一謀反そ一ぐと、  
波照間んかい流すぐと一行き」んち。遣らちゃぐと。

な一昔え、竈ぬ上んけい棚かちよ一、薪から  
ぬ一から置ちゆたんよ。と一と一フチジンぬ、な一船乗て  
い出じらん前て、其処んかい 塩 俵 あ一俵置ち、う  
ぬ棚んかいて、誰がん分からんぐと一し上ぎてい置ち  
え一し。

あんぐと、な一別ぬ御飯作 や一が、御飯お作て  
い出じゃちゃんて一が、王ぬ「今日ん食まらん」、  
あふあさるあぐと一塩 ぬ無ん、「今日ん食まらん」ん  
ちさぐと。「珍し一むん」ち、「あんし苦労し作て  
い出じゃちん『美味こ一ね一』んでい言ん」ち。

あんし、毎日、雨降いなていよ、其処んとう、竈ぬ  
上ぬ 鍋、お汁炊ちゆぬ前んかい、汁ぬチョンチ  
ン垂たぐと、塩 汁ぬて、雨え降たぐと一湿きてい垂た  
ぐと。味しな一、で一じな良い味んり、「珍し一む  
んやっさ一」ち、「今日ぬお汁おちや一し 作 たが」ん  
ちゃぐと、「御無礼な 話 やいやさび一しが、フチヂ  
ンぬが竈ぬ上んかい 塩 俵 あ置ちえ一び一たら、ち  
や一雨降いさぐと一湿きてい、其処から汁ぬチョンチ  
ン垂てい、あんしな一良い塩 梅ぬ味なてい美味さい  
びんね一すん。「え一あに。は一と、何やか美味さし  
え一塩 る、フチヂンが言んね一塩 るやて一る。フチ  
ジン波照間んかい島流しししえ一私がる悪さぐと。  
うり呼び返し」んちよ。

### 【共通語訳】

フチヂンという人は王の炊事係だった。王が「お前  
が一番おいしいと思うのは何か、フチヂン」と聞くと、  
「私がおいしいと思うのは塩です」と答えた。「バカ者、  
王に向かって塩だと、そんな辛い物がおいしいと言う  
のか」と王は怒り、「お前は波照間へ島流しだ。私に謀  
反を企んでいるから波照間へ行け」と、島流しにした。

昔は、竈の上に棚を作って、そこに薪などを置いて  
あったよ。いよいよ出発の日になると、フチジンは船  
が出る前に、誰にも気づかれないように、その棚に塩  
一俵を置いて行ったようだ。

それから、毎日のように雨が続き、炊事係が食事を  
作ってさし上げても、塩がなくて薄味なので、王は「今  
日も不味くて食べられない」とおっしゃった。炊事係  
は、「珍しい事だ。こんなに苦労して作ってさし上げて  
も『不味い』とおっしゃる」と嘆いていた。

そうして毎日雨が降り、湿った塩俵から塩が溶け  
て滴がポタポタと鍋の中へ垂れ落ちた。そしたら、そ  
のお汁はとても良い味になった。王が、「珍しいことだ。  
今日のお汁は、どのようにして作ったのか」と炊事係  
に聞くと、「おそれながら申し上げます。フチヂンが竈  
の上に置いてあった塩俵が雨続きで湿り、そこから汁  
が鍋に落ちて、それで良い塩梅になっておいしいのだ  
と思います」と。「そうか。何よりもおいしいのは、フ  
チヂンの言う通り塩だったんだ。フチジンを波照間へ  
島流しにしたのは私が悪かった。彼を呼び戻せ」と王  
は命令なされた。

あんし、波照間から呼び返ち、「あんあんし、な一波  
照間から今日 来 んでいぐとう、泊 ん久米村ん那覇  
ん、三村ぬ二才達あ出じてい、あり 迎 り」んちよ。  
あんし、三字ぬしんか出じてい、フチジン 迎 いんで  
い、くぬ今ぬ三重 城 ぬ 下 をうていよ、船漕じ早く、  
先 迎 いしえー褒美 呉 んでいち 王 からぬ達示なた  
ぐとう。

あんしな一、フチジンの一其処まで一も一ち海かい  
落ちていていよ、死じ。あんし、うりからぬ始まいんで  
い、ハーリー。毎年、五月 四日ぬ日や、今ちきてい  
やていん、ちや一うぬフチチン 迎 いぬちむえーし。

うれ一戦前ぬ、か一ま 大 昔、大嶺ん人ぬる 話 す  
たる。大嶺ウスメーがハーリーぬ始まい、うりから始  
まと一んでい。

それで、フチチンを波照間から呼び戻し、「波照間か  
ら今日フチジンが戻って来るから、泊や久米村、那覇  
も、三村の青年たちは彼を出迎えなさい」と命じた。  
先に迎えたところには褒美を下さるとの王からのお達  
しが出され、三字の青年たちは三重城下の海岸から競  
って船を出した。

ところが、フチジンは近くに来たところで、海に落  
ちて死んでしまっただね。ハーリーには、フチチンを出  
迎えるという意味合いがあるそうだ。それで、今でも  
毎年、旧五月四日にハーリーを行なっているよ。

これは戦前、ずっと大昔、大嶺のおじいさんが話し  
ていたよ。ハーリーはそういうことから始まったんだ  
ってさ。